

東京とどの実会へのご参加とご協力をお願い

(同窓会について思うこと)

別紙ご案内の通り東京とどの実会総会は六十四回を迎えます。一昨年、平成二十四年は野付牛中学校（北見市市制施行で北見中学校に名称変更）として創立して九十年となり母校に於いて記念式典が開催されました。

私（昭和二十年入学）の在学中、学制改革で6・3・3・4制が導入され、北見中学から北見高等学校、北見北斗高等学校と名称が変わり、私も26期が高校三年の4月、男女共学が実施され30数人のクラスに北見柏陽高校から女子が10人入ってきました。学内の雰囲気は全く変わりました。小学校（当時は国民学校）の時には女子がおりましたがクラスは別でしたので、女子と机を並べて勉強するのは初めての経験でした。その年に生徒会が出来、生徒主導の全校集会があり私が司会役をしました。討議議題は制服は是か非かでした。その集会で1年生の女子生徒が堂々と意見を述べるのにびっくりしましたが、集会は盛り上がったことを60年を経た今でも昨日のように覚えております。高校生活と言っても、それぞれの世代にそれぞれの思いがあると思います。

私が、東京とどの実会に出席するようになったのは、それから三十年後、五〇歳になった昭和55年頃であったと思います。確か原宿の乃木会館が会場であったと思います。東京とどのみ会に出席し、30年ぶりの恩師、先輩、後輩、同期の級友との出会いに何とも言えない懐かしさでした。

それから30年、今年も東京とどの実会総会を実施することが出来ました。これも先輩後輩を問わず会員皆様のご協力の賜物と思っております。そしてこの会を次の世代引き継いでいきたいと願っております。

思い起こせば平成12年第50周年記念総会は当時の桂教夫会長、宮井国夫幹事長の下24期のピアニスト宮川泰氏を招いて同氏が作曲した「宇宙戦艦ヤマト」の弾き語り演奏もあり、半蔵門会館に参加者300名を超える大盛会でした。その後、参加者が減少し、会費収入も頭打ちになっております。現在東京とどの実会会員1400人の方々に案内状を送っております。会員の回答は367通、会費納入321名、総会参加者は99名でした。それでも、次期繰越金1,548,319円となり財政面は改善されてきました。同窓会のような法人格のない団体でも会の運営で重要なことは組織の強化と財政の健全です。このような現在の運営は会員皆様のご協力のお蔭と感謝しております。

東京とどの実会の運営について、ご感想・ご提案・ご批判等ありましたら回答の葉書でお寄せ下さい。この会をよりよいものにするため一人でも多くのご賛同とご支援お願い申し上げます。

平成二十六年四月吉日

東京とどの実会会長 小山内清孝